

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
327	2006/11/22	60709	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060623.1743	WHOは、H5N1トリインフルエンザウイルスの限定的なヒト-ヒト伝播が5月にインドネシアの家族で起こったと発表した。しかし、疾病の拡大に大きな変化を及ぼすものではないとしている。ウイルスの変異は見られたが、ヒトの間での伝播を容易にするものではなかった。
												HTLV	J Virol 2006; 80: 7427-7438	HTLV3型は最近同定された新規のウイルスである。HTLV-3感染者由来の非培養末梢血リンパ球を用いたPCR法に基づくゲノム解析により、初めて完全なHTLV-3配列を明らかにした。HTLV-3(2026N)ゲノムは8917bpで、HTLV-1とHTLV-2とは共に約62%、STLV-3とは87-92%の配列同一性を共有した。系統発生分析ではSTLV-3に属し、霊長類起源であることが示唆された。
328	2006/11/22	60710	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとしている。
329	2006/11/22	60711	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	バクトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	60710に同じ
330	2006/11/22	60712	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタ膵臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	レトロウイルス	Cell Transplant 2005; 14: 749-756	ランゲルハンス島移植のために使われるAN69中空ファイバー膜がブタ内因性レトロウイルス(PERV)の移行を防ぎ、PERV感染リスクを減らすかを調べた。PERV源としてPK15細胞を用いた。ヒトU293細胞を、カプセル封入PK15細胞(第1群)、カプセル封入PK15上清濃縮(第2群)、またはPK15上清濃縮(対照群)とともにin vitroでインキュベートした。第2群ではヒト細胞は全く感染しなかった。第1群では11検体中10検体は感染しなかったが、1検体は感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
331	2006/11/22	60713	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
332	2006/11/22	60714	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
333	2006/11/22	60715	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
334	2006/11/22	60716	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
335	2006/11/22	60717	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
336	2006/11/24	60718	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
337	2006/11/24	60719	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国、カナダ、メキシコ	製造工程	無	無	無			
338	2006/11/24	60720	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
339	2006/11/24	60721	ZLBベリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
340	2006/11/27	60722	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
341	2006/11/27	60723	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分画	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
342	2006/11/27	60724	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
343	2006/11/27	60725	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
344	2006/11/28	60726	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
345	2006/11/29	60727	東レ	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
346	2006/11/29	60728	東レ	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
347	2006/11/29	60729	東レ	インターフェロン ベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルグ	添加物	無	無	無			
348	2006/11/29	60730	東レ	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
349	2006/11/29	60731	東レ	インターフェロン ベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
350	2006/11/29	60732	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	有	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
351	2006/11/29	60733	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
352	2006/11/29	60734	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	インターフェロン ガンマ-nl	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
353	2006/11/29	60735	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
354	2006/11/29	60736	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗IFN-γモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
355	2006/11/29	60737	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
356	2006/12/01	60738	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			
357	2006/12/01	60739	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ヘミン	ウシ	米国及び製造時にBSE問題のない国	製造工程	無	無	無			
358	2006/12/01	60740	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
359	2006/12/01	60741	セローノ・ジャパン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
360	2006/12/01	60742	セローノ・ジャパン	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
361	2006/12/01	60743	セローノ・ジャパン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	米国における水疱性口内炎。報告日-2006年8月18日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、アウトブレイクの詳細-Wyoming州、Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日):ウマにおいて疑い例30例、症例1例、ウシにおいて疑い例25例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No.3:今回報告終了日-2006年9月11日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report報告以降、新規アウトブレイクは報告されていない。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.4:今回報告終了日-2006年9月19日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州、Converse郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月30日~2006年9月6日):ウマにおいて疑い例8例、症例3例、ウシにおいて疑い例400例、症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.5:今回報告終了日-2006年9月26日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州、Converse郡の農場(アウトブレイクの開始日2006年9月10日):ウシにおいて疑い例60例、症例1例。
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日~11日に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバッファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	米国South Dakota州のウシの群において、2006年で2例目の炭疽症例が確認されたLincoln郡において最近炭疽が発見され、ワクチン未接種の51頭のウシの群の3頭が死亡した。2005年に500例を超えるウシ、バイソン、シカがSouth Dakotaで炭疽により死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	米国Minnesota州で、炭疽による死亡が確認された施設がさらに2つ追加された。これらはMarshall郡およびPolk郡にある。炭疽が原因の死亡の最新報告は2006年7月25日の肉牛における炭疽である。
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory(TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、最近10日間で炭疽が疑われるウシの死亡76頭を報告した。検査で3例が陽性症例と確定された。洪水で土壌の細菌に暴露したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewanで動物の炭疽による死亡は779頭に達した(先週53頭が死亡)。先週5つの牧場施設における感染が新たに報告された。
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、バイソン、シカ、ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があるとして決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結論を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency(CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。
362	2006/12/01	60744	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update12): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国19例目のヒト感染症例を確認した。患者はGuangdong省Shenzhen市の31才の男性で、6月3日に発症した。感染源についての調査が実施されており、予備的報告では、症例は発症前に、生きた家禽が売られている地域の市場を訪れたことが示された。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式に報告されていない。現在までに報告された中国における検査確認された19例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者(Shenzhenの31才トラック運転手)が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者らが2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060629.1800	中国衛生省は、2003年11月にH5N1トリインフルエンザで死亡した男性症例に関する報告(N Engl J Med 2006; 354: 2731-2732)について独自の調査を実施している。この報告は8名の中国の研究者によるもので、当局は同誌に発表されるまでこの症例を知らなかったと言っている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update13): 2006年8月8日に中国衛生省は、2003年11月に遼りH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例をレトロスペクティブに確認した。症例はBeijingを拠点とする軍人の24才男性で、2003年11月25日に発症し、重症呼吸器疾患で12月3日に死亡した。本症例の確認により、中国本土における最初のH5N1ヒト感染事例が明らかとなり、現在のアウトブレイクにおいて最初に確認された症例となる。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060812.2261	中国衛生当局は連絡の問題により、H5N1トリインフルエンザのヒトにおける初めての症例の報告に2.5年の遅延があったことを2006年8月10日に発表した。Beijingの24才の軍人が2003年後期にトリインフルエンザに感染していた。中国はこの症例を中国の研究者らがNew England Journal of Medicineにおいてレターを発表した後初めて確認した。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月14日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update14): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で21例目のヒト感染症例を確認した。症例はXinjiang Uygur自治区の62才男性で、2006年6月19日に発症し、7月12日に死亡した。症例の検体に関する初期検査は陰性であった。7月および8月に検査を繰り返し行ったところ、最終的に陽性結果であったことが、2006年8月14日に衛生省により確認された。症例の疫学的調査により死亡または病気のトリへの暴露歴を明らかにすることはできなかった。
												デング熱	ProMED-mail20060608.1593	香港で健康予防センター(Centre for Health Protection)は2006年6月1日にデング熱の輸入症例(36才、男性)を確認した。患者はマレーシア在住である。2006年で12例目の輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060604.1553	台湾の環境保護局はデング熱のアウトブレイクに対して予防措置をとるよう呼びかけた。蚊が発生する場所をなくすことが唯一の予防策であると言っている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail20060719.1989	台湾Kaohsiungで2006年7月6日に初めての固有のデング症例が発見された。続いて更に6例が発見され、合計7例となった。デング蚊指数は常に高く、検査された地域の約92%で警戒レベルである。
												デング熱	ProMED-mail20060730.2110	台湾の疾病管理センターは南部でデング熱の脅威が増加するおそれがあると2006年7月25日に発表した。今年のデング熱症例は59例であるが、そのうち17例が国内で感染しており、17例中15例がKaohsiung Cityで報告されている。
												デング熱	ProMED-mail20060806.2196	Kaosiungにおけるデング熱のアウトブレイクの悪化は継続していること、2006年7月6日にKaosiungのQienzeng地区でデング熱症例が報告されて以降、デング熱の発生は悪化している。これまでに報告された症例は28例で、同地区で25例、Qianjin地区で3例である。
												デング熱	ProMED-mail20060901.2486	香港でMa On Shanの62才の男性がデング熱を確認された。2006年7月1日から28日まで中国本土へ旅行し、2006年8月1日に発熱し、現在は回復している。本年の症例数は22例で、全て輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060911.2577	2006年9月4日現在、中国Guangdong省で、先週、デング熱症例数が倍以上の219例となり、半数がまだ入院中である。中国の専門家らは最近の高温多湿の天候や、蚊に対する取り組みが不十分であることがアウトブレイクの原因であるとしている。台湾では第35週(2006年8月27日～9月2日)に、デング熱症例90例が報告され、31例は検査で確認された。9月2日現在、今年の報告症例数は721例で、そのうち202例が確認された。死亡例は報告されていない。
												ハンタウイルス	ProMED20060513-0010	2006年3月、台湾CDC(疾病管理センター)は、検査室で確認されたハンタ腎症候性出血熱(HFRS)の患者3人の集団発生の報告を受けた。3人の患者は同室で、海軍に従軍して、2006年1月24日から軍艦に滞在していた。ELISA法にて、ハンタウイルスIgMおよびIgG抗体とも陽性で、IFA法によって、Seoul亜型であることが判明した。軍艦と寮施設の13匹の齧歯類のうち、6匹が(ハンタウイルス)検査陽性であった。新たな疑い例の発生があり、5月3日から軍人全員が軍艦から退去した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail20060621.1712	2006年6月12日以降、中国Shaanxi省Mizhi郡において生徒および教師60名が熱性疾患を発症している。大部分の生徒は高温および乾燥した空気が原因の呼吸器感染症を発症したと考えられ、より少数の生徒は流行性耳下腺炎および百熱咳を患っている。病原体の特定はまだされていない。
												インフルエンザ	ProMED-mail20060624.1757	中国で、2006年6月11日～22日に、Guangzhou大学の130名を超える学生および職員がインフルエンザ(インフルエンザ型疾患)に感染した。同様の症例は同市の他の学校においても発生している。主な症状は発熱で、重症にはならない。
												感染	ProMED-mail20060828.2449	中国南西のYunnan省のLuliang郡Xincun村で、住民39例が重度の疼痛に苦しみ、2006年8月22日までに1例が死亡し、3例が入院した。最初の調査結果により腸チフスが示唆された。
												日本脳炎	ProMED-mail20060827.2441	中国Shanxi省Yuncheng市で日本脳炎のアウトブレイクによる死亡の合計は19例に増加し、感染者は38例であると地域保健当局が2006年8月12日に述べた。Henan省ではさらに14例が日本脳炎で死亡し、既に報告された26例の死亡に追加された。2006年7月以降、437例が感染したとHenan省保健当局は述べた。
												日本脳炎	ProMED-mail20060909.2565	台湾の届出伝染病サーベイランスシステムに基づき、2006年8月27日～2006年9月2日に日本脳炎が台湾で7例報告された。2006年9月2日時点で、2006年に台湾全域で188例報告され、このうち20例が確認された。1例はベトナムからの輸入症例、19例は地域症例である。
												炭疽	ProMED-mail20061002.2822	Shaanxi省において1家族の3人が、病気のヤギを食べた後に炭疽に感染し、病院にて隔離・治療を受けている。
												赤痢	ProMED-mail20061020.3015	Sichuan省Mianzhu市の中学校において生徒100人余りが細菌性赤痢となり、計143人が症状を呈している。2006年10月10日から症状がみられ始めた。Anhui省Taihu郡の学校において細菌性赤痢が確認され(2006年10月13日に生徒数名において発見)、100名に症状がみられ、34例が入院中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
363	2006/12/01	60745	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、パハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員 Plasmodium falciparum に感染していた。
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。
												マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												トリパノソーマ症	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(29): 798-800	ロサンジェルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。